

うきたむ考古通信

2019年9月号

■発行者 うきたむ考古の会
事務局 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内
〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117
電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

考古の会共催事業報告

♥みる・きく・ふれる遺跡の旅24 「栃木県北部をめぐる旅」

6月29日(土)・30日(日)開催

●今年度の遺跡の旅は栃木県北部をめぐる旅となりました。6時45分考古資料館発。東北中央自動車道、東北自動車道を経由し西那須野塩原ICで高速道路を降り、那須野が原博物館へ。ここで、2日にわたって案内いただく芹澤清八氏と合流。館内に入り前館長の金井忠夫氏から説明を受けました。金井氏はブラタモリに出演した那須野が原の地形形成史や民俗を専門とされているということですが、重要文化財に指定されている槻沢遺跡の土器について出土状況や火災を受けながらも見事に復元された苦労話も交えてお話をうかがいました。また、那須野が原の開拓の歴史も丁寧に説明していただきました。何しろ博物館は三島通庸の農場事務所にあったということで、山形県民にとっては親近感があり、参加者一同感動しながらお話をうかがいました。また、芹澤さんから大山巖農場について、史前学の「大山柏」についての補足説明を受けました。

次に大田原市に移動し、笠石神社で那須国造碑を見学しました。最初に宮司さんから碑の歴史的な重要性を講義していただき、間近に国宝の那須国造碑を見学できました。

昼食は栃木県水産試験場に隣接するなかがわ水遊園の味処ゆづかみの天ざるでした。午後からはなす風土記の丘湯津上資料館と歴史民俗資料館で上野館長、木村館長さんに案内・説明を受けました。那須国造碑と発見後に下侍塚・上侍塚前方後円墳の調査に関わり水戸光圀公、大金氏の果たした考古学史上の大きな成果を学ぶことができました。

大田原市歴史民俗資料館で山形と縁の深い人物である平田東助が那須野が原開拓に果たした業績やその墓が大田原市にあることなどを知ることができました。その後、上野館長の案内で小雨の中、下侍塚古墳を見学しました。水戸光圀公の掘られた主体部の再発掘の可能性など興味深いお話をうかがいました。その後なす風土記の丘資料館で、鏑木館長さんから、展示資料全般について丁寧に説明していただきました。特に、那須が下野の古墳文化の中で最も古い古墳が多いことや東山道の発掘成果に関心を寄せた参加者が多かったようです。その後、小砂焼の藤田製陶所へ。説明を受けた後、小砂焼を買い求めました。最後は宿泊先の馬頭温泉郷「いさみ館」へ。温泉と鮎料理、猪料理を堪能しました。

二日目の30日は朝食後、宿を8時30分に出発しました。かなり強い雨の中、最初はさくら市の勝山城跡にあるさくら市ミュージアム―荒井寛方記念館―へ。小竹館長さんから同市出身の日本画家荒井寛方の作品展示室で詳しい説明を受けました。また、鋸展示室ではノコギリ製作者であり、かつ収集家での吉川金次氏(『鋸 ものと人間の文化史』法政大学出版局(1976年)、『斧・鑿・鉋 ものと人間の文化史』法政大学出版局(1984年)の著作は有名です)の復元品や収集品が展示され、多くの種類のノコギリについて使用法等について教えていただきました。吉川氏は旧氏家町の出身で、死後、製作品と収集品が寄贈されたとのこと。また、野口雨情コーナーや考古資料・歴史資料についても、詳細な説明をしていただきました。晴れていれば勝山城も見学する予定でしたが、あいにくの強い雨。見学を断念しました。

次に向かったのは飛山城史跡公園に。鬼怒川の左岸高台に作られた飛山城は1293年に芳賀高俊によって築城され、1590年に秀吉の命で破脚するまでの約300年にわたって継続した城で鬼怒川に面した北側の三重の堀で囲まれた区画された部分が主郭とされること。とびやま歴史体験館でボランティアガイドさんから模型やジオラマで説明を受けました。雨のため、現地見学は中止の予定でしたが、雨の中でも現地を見たいという希望者もあったことから、希望者を募ってボランティアガイドの方から案内していただきました。14haと広い城跡に見事に整備された堀と土塁、枡形、櫓台に加え、復元建物についても説明をしていただきました。現地見学している中、雨も小降りとなりました。

飛山城史跡公園の次は宇都宮城の近くで昼食を摂りました。昼食後は、宇都宮城と清明館へ。清明館では根古谷台遺跡から出土した重要文化財の耳飾りや弥生土器、古墳の出土品などを見せていただきました。宇都宮城を後にし、大谷に向かいました。雨もやみ、青空もちらほら見える天候となり、蒸し暑くなる中、大谷資料館で巨大な石切場と空間を見学しました。中は寒いくらいでした。その後、大谷寺に向かい特別史跡・名勝・重要文化財と重複して指定されている大谷観音と石仏群を拝観しました。そして、宝物館で目指していた草創期から早期の出土品を見学しました。

大谷寺の後は最後の見学地の史跡根古谷台遺跡のある「うつのみや遺跡の広場」へ。ガイダンス施設で出土品を見たあと、復元住居や墓坑等が整備されている史跡内を見学しました。復元された建物では日本で最大の規模を持つ大形住居跡等を見学しました。その後、2日間案内頂いた芹澤さんと来年の再会を約束してお別れし、鹿沼ICから東北道に入り帰途につきました。考古資料館には19時30分過ぎに到着しました。

考古の会自主事業報告

♥アイヌ語地名を巡る

4月の役員会で開催が要望された「アイヌ語地名地を巡る」の第1弾として、7月27日(土)に考古の会会員の清野春樹先生に案内していただき、米沢市築沢と田沢を巡りました。9時半に考古資料館に集合し、出欠確認、行程説明後に、自家用車に分乗して総勢10名で出発しました。

まずは米沢に向かう途中の高畠町から。

①露藤(つゆふじ) tuy puchi 崩れる 河口

白髭神社(元の場所は天王川沿い) 天王川と奥羽本線 白髭神社は朝廷側がアイヌ系の住民に与えた神社。アイヌのイナウは白いヒゲのよう。

- ②窪（くぼ）kut hot 崖 女陰
窪では田んぼアートも見る事ができた。
- ③一盃（いっぱい）epuy ぼこんとした丘
一盃向山と一盃集落が該当する。
- ④保呂羽大権現（ほろわだいごんげん）poropa 広い 頭（優れた酋長）
古代のチャシの趣があるという。
- ⑤初神（はじかみ）has kam 灌木 覆いかぶさる
初神の集落がこのような場所にある。
- ⑥螻蛄尾峠（けらおとうげ）kes ranpoku 外れ 坂の下
田沢から川西に抜ける峠の田沢側の登り口
- ⑦行人清水（ぎょうにんしみず）kio nin sumsuy 萱林 浸込む 清水
- ⑧持原（もちはら）mo ocirusi 小さな 崖（rusi を省略+原）
- ⑨戸長里（とちょうり）tu ci ori 古き 我らの 丘
- ⑩雑木川（ざっこがわ）sat kot ka wa 乾いた 谷 ほとり 岸边
- ⑪白夫平（しらぶだいら）sirawoi 虻の多い所
- ⑫座留（ざる）sar 葦原
- ⑬塩地平（しおちだいら）si ocirusi 大きな 崖（rusi を省略+平）
最古の草木塔と館山城を築城した新田氏の山城である塩地平館がある。塩地平館は大きな崖を利用する構築法がとられ、新田氏の城に共通している特徴である。出身地岩手県志波町の北上川沿いの高水寺城＝志波城（大きな岸边）や成島館、新田館も同じ。

館事業報告

各種体験講座

♥ガラス玉をつくろう、カラムシで布をつくろう

●6月15日に「ガラス玉をつくろう」と「カラムシで布をつくろう」の二つの体験講座がありました。ガラス玉は当館の体験行事の中でも人気の高いもので道具数の関係で1回に5組に限定していますが、3回で合計14組と今回も大勢の皆さんに参加していただきました。もう一つのは簡易の織機でっコースター程度の大きさの布を織るものと、アングイン台でポシエットをつくる体験で、こちらには12名の参加がありました。

♥古代風ブレスレットをつくろう

●6月22日に古代風ブレスレットをつくろうの体験が行われました。参加者は8名と多くはなかったのですが、思い思いの色合いの作品を作り上げていました。

♥ 勾玉・弓矢・石器をつくろう

● 7月13日に今年度2回目の勾玉・弓矢・石器をつくろうの体験講座がありました。残念ながら参加者は28名と少なく、開催時期も再考する必要があるのではないかと思います。

♥ 大人の自由研究

● 3回目の開催となった講座の参加者は2名に留まりました。青苧から繊維を取る作業で12月に2回目が行われますが、それに間に合うくらいの繊維は確保できました。

♥ スクールオブジョウモン

夏休みの1日を縄文時代人になって様々な体験をしようという企画です、今年で4回目となりました。体験メニューに変更はなく、は開講式に続いて「石器づくり実演」、「弓矢をうって獲物をとろう」、「石器を使っていろいろなものを切ってみよう」、「火をおこそう、縄文バーベキュー」、「ドッキーをつくろう」、「今日のおさらい」、ということで、当初は予約者が少なく、開催が危ぶまれましたが、前々日に10名に達し、無事開催に漕ぎ着けました。

👁️ 特別テーマ展関連講座が終了しました

令和元年度特別テーマ展『花沢A遺跡と置賜縄文時代中期後半の世界』に関連する講座が6月23日、7月7日、7月14日の各日曜日に開催されました。

第1回

令和元年6月23日(日)

「高畠町の縄文時代中期後半の遺跡」

井田 秀和氏(高畠町教育委員会)

「米沢市内の縄文時代中期後半の遺跡」

手塚 孝 氏(米沢市教育委員会)

第2回

令和元年7月7日(日)

「長井市の縄文時代中期後半の遺跡」

岩崎 義信氏(長井市教育委員会)

「小国町の縄文時代中期後半の遺跡」

阿部 明彦氏(山形考古学会副会長)

第3回

令和元年7月14日(日)

「花沢 a 遺跡の調査と出土品」

佐藤 智幸氏(米沢市教育委員会)

「山形県内の縄文時代中期後半の炉と土器の変遷」菅原 哲文氏((公財)山形県埋蔵文化財センター)

6名の講師陣からお話をうかがいました。参加者は第1回が16名、第2回が11名、第3回が15名で、会員の皆様からも受講していただきました。

👁️ 特別テーマ展「花沢A遺跡と置賜縄文時代中期後半の世界」の図録が刊行されました。

8月初旬に特別テーマ展『花沢A遺跡と置賜縄文時代中期後半の世界』の展示図録を刊行しました。A4版、オールカラー本文64頁で頒布価格は800円となっています。

👁️ 第27回企画展「縄文時代後期の山形」

1. 趣 旨 近年、資料が充実してきた県内の縄文時代後期に焦点を当てることといたしました。遺跡数も多く、竪穴住居の数では他の時期を圧倒する縄文時代中期末葉から一変し、後期に入ると遺跡数も減少します。東日本各地の影響を受けた土器が出土する後期初頭から前半、地域的に相違があるものの東日本に大きな文化圏を形成する後期中葉、それから東北では瘤が付く土器が目立つ後期後葉と土器が変遷します。この時代の人々の暮らしぶりを、発掘調査の成果や出土品から考えます。
2. 名 称 「縄文時代後期の山形」
3. 主 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
4. 期 間 令和元年9月14日（土）～令和元年12月1日（日）
*開館時間は9:00～17:00
5. 会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 企画展示室
6. 展示構成
 - 第1章 「住まい・墓と土器の変遷」とします。や、お墓と考えられる遺構を図や写真で紹介するとともに、後期の土器がどのような変遷を辿ったかを土器の展示をとおして示します。
 - 第1節 後期の集落とそれを構成する竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの住まいについて図や写真で紹介します。
 - 第2節 人骨が出土した後期のお墓は県内で1基検出されているだけですが、状況証拠などからお墓と考えられる遺構についても、図と写真で紹介します。
 - 第3節 後期の土器について1後期初頭、2後期前葉前半、3後期前葉後半、4後期中葉、5後期後葉の順に配置します。
 - 第2章 「後期の食料事情」とし、生産用具である石器や植物遺体や動物遺体をとおして、この時期の人々が何を食べていたのか、どのようにして食料を獲得していたのかを探ります。
 - 第1節 後期の生産用具である狩猟具、漁携具、加工具、伐採具などの石器をかつ遺跡の出土品を中心に紹介します。
 - 第2節 小山崎遺跡から出土した勤植物遺体から後期縄文人が何を食べていたのかを考えます。
 - 第3章 「後期の物流と交流」として、漆製品やアスファルト特定の地域に産する出土品をとおして、縄文時代後期の地域間交流を探ります。
 - 第1節 後期になると漆製品も多く出土します。小山崎遺跡の漆器や漆関連の出土品から、当時の漆工技術を考えます。
 - 第2節 県内では産出しないものも、県内の遺跡から出土します。他地域から、県内にもたらされた製品や、ある特定地域でしか産出しないものを通じて、当時の交流について考えます。
 - 第4章 「装飾と祈り」として、後期になると出土例が多くなる身体を飾った「装飾品」や「土偶」、祭りに使われた道具などを展示します。

- 第1節 身体を飾るものとして、髪飾り、耳飾り、垂飾品を展示します。
 第2節 後期にはいと増加する多彩な土偶や、祭りや祈りに使われたと考えられる石製品や土製品を展示します。

館主催事業の案内

令和元年度 第21期考古学セミナー

開催要項

1. 趣 旨

企画展に関連したテーマでセミナーを行うことにより、企画展の内容への理解や展示見学への意欲を高める。

また、考古資料を通じ山形県の古代史や埋蔵文化財への理解を深める契機とする。

2. 主 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
3. 期 日 令和元年9月29日・10月6日・10月13日(日)
各日とも13:30~16:00
4. 会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室
5. テ ー マ 『縄文時代後期の山形』
6. 講義日および講師
- | | |
|----------------|--------------------------|
| 令和元年9月29日(日) | |
| 「置賜の縄文時代後期の遺跡」 | 手塚 孝 氏(米沢市教育委員会) |
| 「村山の縄文時代後期の遺跡」 | 植松 暁彦氏((公財)山形県埋蔵文化財センター) |
| 令和元年10月6日(日) | |
| 「最上の縄文時代後期の遺跡」 | 水戸部秀樹氏((公財)山形県埋蔵文化財センター) |
| 「庄内の縄文時代後期の遺跡」 | 渋谷 孝雄(うきたむ風土記の丘考古資料館) |
| 令和元年10月13日(日) | |
| 「縄文時代後期の住居と集落」 | 菅原 哲文氏((公財)山形県埋蔵文化財センター) |
| 「縄文時代後期の墓」 | 小林 克 氏(三内丸山遺跡発掘調査委員会委員長) |

♥秋の遺跡めぐり

10月5日(日)に宮城県蔵王町の遺跡や文化財を巡ります。詳細は同封しました、要項を御覧下さい。人気の企画ですので、早めにお申し込み下さい。

♥勾玉・弓矢・石器、古代風ブレスレットをつくろう

5月125日、7月13日に続き、今年3回目となる勾玉づくり、弓矢づくり、石器づくり、そして6月22日に続き2回目となる古代ブレスレットをつくろうが開催されます。

11月3日(土)文化の日の開催です。家族皆さんでご参加下さい。

♥ガラス玉をつくろう

6月15日(土)に続き今年2回目が11月30日(土)に開催されます。できるだけ多くの方に体験していただきたいとの考えから今回も三つの時間帯を設定して開催することとしていますので、最大15組までの予約を受けられます。リピーターの多い体験学習ですが、受入数に余裕があるかと思えます。予約が必要ですが奮ってお申し込み下さい。

♥大人の自由研究

12月14日(土)に開催します。7月20日に採取した繊維から布を織ります。1回目に参加できなかった方もお待ちしております。

👤企画展記念講演会

「縄文時代後期の山形」

講師 (公財)山形県埋蔵文化財センター 小林圭一氏 氏

開 催 要 項

1. 趣 旨

第27回企画展「縄文時代後期の山形」を記念し、講演会を開催する。

縄文時代後期の研究者として著名な講師に招いて講演をいただくことで、縄文時代後期のこれまでの研究成果についてお話ししていただき、当該期について理解や関心の向上に資する。

2. 主 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
3. 期 日 令和元年11月17日(日) 13:30~15:30
4. 会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室
5. 演 題 「縄文時代後期の山形」
6. 講 師 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 小林 圭一氏
7. 参加費 500円
8. 対 象 一般 50名程度
9. 申し込み 11月12日(火)まで

東北情報館



企画展 『縄文時代後期の山形』

入館料 一般／200円 大学生／100円 高校生以下／無料

9月14日～12月1日 うきたむ風土記の丘考古資料館 TEL: 0238-52-2585



特別展 『上杉家 武家の文化 公家の文化』

入館料 一般／620円 高校生・大学生／400円 小・中学生／250円

9月21日～11月24日 米沢市上杉博物館 TEL: 0238-26-8001



『発掘された日本列島 新発見考古速報 2019』

入館料 一般／1000円 高校生・大学生／500円 中学生以下／無料

9月21日～11月4日 三内丸山遺跡センター TEL: 017-766-8282



令和元年度企画展

『渦文—時を超える文様—』

入館料／無料

9月28日～12月15日 まほろん TEL: 0248-21-0700



秋季企画展 『海をわたったヒスイ』

入館料／無料

9月6日～12月8日 新潟県埋蔵文化財センター TEL: 0250-25-3981



秋季企画展 『技と造形の縄文世界—形と文様に見る美の心—』

入館料／無料

9月7日～11月4日 農と縄文の体験実習館なじよもん TEL: 025-765-5511